



校長： 留学生については、今年度22名が入学しており、実習先には大変お世話になっております。アルバイトの確保も難しく、スーパーやコンビニなど介護施設以外の事業所でもお世話になっていますが、日本語も上手くなってきており、地域の皆様に育てていただいていることに感謝しています。以前ご指摘いただいた連絡事や時間の厳守についても、まだまだアバウトな学生が多い状況ですが、事あるごとに根気よく指導を行っています。生活面や習慣面についても、何かお気づきの点がありましたらお願いします。

委員 実習やアルバイトでは特に悪い所も見受けられませんし、皆真面目に取り組んでもらっています。

委員 実習前のオリエンテーションでも、説明用のタブレットを用意していましたが、日本語の理解がかなりできるようになっていると思います。

校長 実習中は時間も長いため、最後までさぼったり迷惑をかけたりせずに活動できているでしょうか。

委員 特に問題もなく、褒めることの方が多いい気がします。

## (2) 令和6年度合同就職面談会（施設訪問）について

校長： 今年卒業見込みの日本人学生は3名でしたので、面談会ではなく個人的に企業訪問の形で就職活動を行ってきましたが、今年度の入学生が8名おります。今のところ、ほとんどの日本人学生が市内での就職を希望していますので、次年度は面談会を開催したいと考えています。

現時点での次年度入学予定者は5名です。両高校の卒業生も年々少なくなり、最初から介護職を選択する学生も壱岐高・壱岐商業も少なくなっています。第1希望の所を受験して、うまくいかず、次の進路を考えたり、経済的な理由から壱岐に残るという選択をしたりする学生も出てきていますので、本校は、3月までは受け入れ可能だとお願いしています。私たち壱岐校がお手伝いできるのは「介護福祉士の資格を取得させ、できるだけ市内の介護施設での就職をサポートする」こととなりますが、今年度もあと何名かの入学希望者が出るように広報活動を続けます。壱岐市社会福祉協議会におかれましては、日頃よりご協力いただいていることに心から感謝しています。

委員： 募集の回覧も出しているが、拘束されるから嫌だと躊躇しているという話を聞きます。うちの施設には高卒からは入れていません。資格を持った者が入ってくれることが望ましいからです。今雇われている者も強い指導をされるとすぐにシュンとしてしまい、大変指導がしにくい時代になりました。雇った日本人より、外国人の方がしっかりしている気がします。

委員： 私の施設に来られた日本人実習生に対して、態度について注意をしたことがあります。今の時代は大切なことを指導しているつもりでもパワハラやいじめなど、指導される側の受け取り方が以前とは違い、難しい世の中です。

委員： 本当にそのように感じます。ハラスメントの問題が大きく報道されるようになり、叱咤激励が本当に難しい。的確な指導ではあるが受け手の印象は違っている。本当はここまで指導したいと思いながらも、遠慮しながら指導をしなければならないことが多くなったのではないかと思います。

委員： 注意されることが少なくなれば、自分達の考えで行うことが多くなります。それが正しい方法であればいいのですが。

委員： 4月から人材は欲しいのですが、会計年度の任用募集となっています。

校長： 面談会の開催時期は雇用側のニーズに合わせたいと思います。

委員： 学生さんも、1月末には国家試験があるので、雇用する事業所としては、11月までに面談会も採用試験も行いたいと思っています。

校長： この面談会によって、学生達には国家試験・就職への意欲や意識を高めさせる。スイッチを入れさせる。よいきっかけになると思います。

留学生のほとんどは連携施設に奨学金や多くの支援を受けて勉強している学生が多く、卒業後はそこで働くことを前提に本校に通っています。しかしながら、同じ国の先輩たちやネットワークでの色々な情報や誘いが入ってくる中で、途中で行かないと言い出す者がいます。お金を返せばそれでいいと思っているようですが、学校は今までのご支援に感謝を表すためにも卒業後はそこに就職することを前提に指導しています。

委員： 私たちの職場でも、基本給が安いのが、諸手当の上積みでプラスアルファの給料を増やしていく、65才になったら年金を貰うようになるが、ある程度の金額を貰おうと思うなら頑張るしかない。途中で仕事を替わったら、また一からやり直しになる。一つの所で頑張ろうという気持ちが必要である。というようなことを指導しています。

校長： 私は仕事を簡単に変わるのには勇気がいると思いますし、なかなかスキルアップができないように思うのですが、今の若い人たちの考えは、最初の仕事を一生の仕事と思ってやっていない、通過点と考えてしまっている人が多いとも聞きます。留学生にしてもあまり日本語も話せない状況で、安易に雇用先を変わってしまっていて、後から条件が違うと言って後悔しても後戻りできないということを丁寧に指導しているつもりですが、なかなか理解してもらえないようです。

委員： 今は学校の通知表も良くも悪くも書けない。親から言われるので「普通」としかつけられない。職場の評価等についても同じことがいえると思います。上の人間は本人にとって必要なことは言わなければならない。怖がってはいけなないと思います。あまり過剰なものは駄目ですが。

### (3) 国家試験に向けた取組について

学科長： 模擬試験の回数を増やしました。全国の模擬試験で、全体で自分がどの位置にいるのか把握してやっています。昨年度同様、日本人学生合格率10

0%を目指します。留学生も頑張っており、合格圏の学生もいます。

十分に対策の時間を確保させて、客観的に自己の成績の得意、不得意の分野をチェックし学習方法や計画を立てさせるように指導しています。

委員： 私の施設からお世話になっている研修生にもあまりプレッシャーをかける言い過ぎはいけませんが、合格して卒業するように指導している。

学科長： 学校としてもやはり学生生活の2年間で合格してもらうように指導しています。

校長： 試験勉強に集中するために、この時期からアルバイトを辞めた日本人学生もいます。

#### (4) 事業報告並びに今後の予定について（卒業生の進路含む）

※配布した事業報告プリントをもとに説明

校長： 前回以降老岐商業から3名、向陽高校から1名、社協から1名の計5名が受験しております。5名は少ない方ではありませんが、3月までまだ日は残っていますし、今後も継続して働きかけます。9月には卒業予定者10名の仮卒業判定会議を行いました。留学生1名の実習遅れがあるものの、今の所順調です。国家試験を目指す方への実務者研修会も行っております。10月には各中学校の進路説明会に参加しております。保護者が多いので、社協さんの支援制度の紹介など説明を行いました。今月は1年生が施設実習を行っております。今月末には1年生・2年生とも冬休みに入ります。年明け1月28日は国家試験、3月7日に卒業式を予定しております。今年度の卒業式は、お世話になった施設、実習先など案内をしたいと思います。

委員： 久しぶりに招待していただけるのであれば、できるだけ空けておきます。

#### (5) 今後の課題について（総合的な意見を含む）

校長： 途中話をいたしました。今年度は多くの留学生を受け入れております。学校を存続されるためにも、多くの学生を受け入れていかなければなりません。玄州会さんも関東から3名の外国人を受け入れるべく、本校を受験予定です。今後も段階的に進めて行かれるものと思います。学校としても多くの学生を受け入れるために、寮の整備、実習先やアルバイト先の確保など、環境を整えていかなければなりません。

#### (6) その他

※事務局よりその他全体的な意見について確認したが特に意見はなかった。

事務局： 以上をもって令和5年度第2回教育編成委員会を終了いたします。